

CO・OP

京都の生協

2014/August/No. 84
京都府生活協同組合連合会



ひどりはみんなのために、みんなはひとりのために
——「保育と給食のつながり」を大切にしてきた保育園——

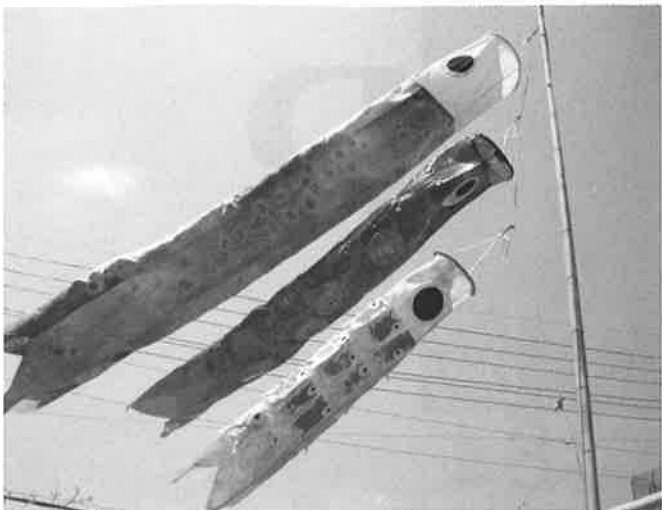
TalkTalk トークとーく

●社会福祉法人樹々福祉会 ^{あか}朱い実保育園 園長 ^{かね}兼 ^だ田 ^{ゆう}祐 ^こ子さん
●京都府生活協同組合連合会 会長理事 ^{かみ}上 ^{かけ}掛 ^{とし}利 ^{ひろ}博

対談

TalkTalk

トークとーく



ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために

——「保育と給食のつながり」を大切にしてきた保育園——

社会福祉法人樹々福祉会 朱い実保育園 園長 兼田 祐子さん
京都府生活協同組合連合会 会長理事 上掛 利博

ふと見ると、ガラス戸の向こうからのぞく子どもたちの顔、顔、顔——。好奇心に満ちたその目は、きらきらとした輝きを放っています。この子たちの育ちを守るために、保護者と保育園、そこで働く職員が話し合い、協力しあってきました。「充実した給食」で知られる朱い実保育園。ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために、**「保育と給食のつながり」を大切にしてきた保育園**——

合唱団の仲間の食事作りの経験が保育園の採用試験に役立つ

上掛 兼田さんは、わたしと同じ京都府立大学の出身で、府大合唱団の一年先輩でした。兼田さんたち合唱団の女性陣3人が一軒家に下宿していたので、男性陣はよく押しかけて、ごはんを食べさせてもらいましたよね(笑)。
兼田 その経験があったので、この園の栄養士採用試験で「お客さんが来たときの食事内容を絵に描いてください」という課題が出たとき、
「みんなで食べるごはん」のイメージがパッと湧いて、すらすら描けたの。後で聞いた話によると、「紙面いっぱい使って、のびのびとバランスのよい食事が表現できています」と評価されたそうです。
上掛 われわれが、ごちそうになっていたことが少しは役に立ったわけですね。
兼田 とっても！人間、何が評価されるかわからない(笑)。
上掛 京都府大での所属は家政学部食物学科でしたね。
兼田 そうです。卒業後は別の仕事をしていたけど、大学の恩師が「朱い実保育園が栄養士を探しているけど、どうですか？」と声をかけてくださったの。栄養士というイメージがあったし、保育園の栄養士の仕事もまったくわかっていなかったけど、「夏休みがあるかもしれない」と

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談	京都府生協連 第61回通常総会開催	8	●介護保険制度改定と新しい地域支援事業の意見交換会	15
ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために	2014年国際協同組合デー 第25回京都集会	10	●京都府災害ボランティアセンター総会	15
くらしの安全・安心	ピースアクション京都2014	12	●京都市ゴミ減量推進会議総会	15
●適格消費者団体・NPO法人消費者支援機構関西(KC's) 総会	TOPICS		●ドイツのエネルギー転換の現場に学ぶ京都講演会	15
●京都くらしの安心・安全ネットワーク情報交流会	●きょうと食育ネットワーク通常総会	14	●大学生協京都事業連合とNPO法人コンシューマーズ京都が京都環境賞受賞	15
●適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワーク(KCCN) 総会	●近畿地域食育実践者等の交流会 ~食育への理解と関心を深めよう~	14	京都府生協連 第12回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」	16
●NPO法人コンシューマーズ京都・原強理事長が内閣総理大臣表彰	●京都府消費者教育フォーラムが開催されました	14	おもな行事のお知らせ	16
	●京都府省エネ・節電調整連絡会議	14		
	●地球温暖化防止府民会議総会	14		



社会福祉法人樹々福祉会 朱い実保育園 園長
兼田祐子さん

いう期待もあって、採用試験を受けることにしたわけ。仕事をしはじめて1か月した頃、園庭に出たらまぶしくって、高いところに大きな鯉のぼりがフワーンと泳いで

いてね、「ああ、わたしはこの青空のもとで仕事ができるんだ！」と感激したことは、いまでも忘れないわ。あのとき、わたしは25歳。もう35年もたっているのにね（笑）。

その鯉のぼりは、いまでも4月のお誕生会にあげているの。最近はその大きな鯉のぼりは珍しいので、ご近所のみなさんも喜んでくださっているかなと思っています。

子どもと保護者に心を寄せて

上掛 朱い実保育園は、0歳児クラスが0歳前半と後半の2つで、1〜2歳児も月齢で3クラスに分けるなど、乳児のクラス分けがきめこまやかです。

動できる子ども」「よく見て、よく聞いて、よく考えられる子ども」「意欲的にものごとにとりくみ、最後までやりぬける子ども」を決めたようです。それからもう、37年たっているのです、この「子ども

に目を向けていくと、安心して落ち着いて、自分の気持ちをいってあげることが多いのね。人間である限り、私も含めて誰もが願いをもっているけれど、それぞれ苦手なことも持っているから、自分のいところ活かせるようになったらいいかな。そういう

う目線で、子どもと保護者に心を寄せて取り組みたいと思っています。



京都府生活協同組合連合会 会長理事
上掛利博

兼田 もともと京都大学の教職員や院生のための職場内共同保育所として、産休明けの0歳児保育から出発したので、その特色がいまも受け継がれているのね。1965年にスタートしたから、来年で50周年です。

その後、認可保育所になり、77年から幼児保育にも取り組むようになったとき、朱い実保育園の「子ども像」として、「健康な子ども」「自分のことは自分でできる子ども」「意思をはっきり伝えられる子ども」「友だちを大切にし、友だちと一緒に力を合わせて行

ていまして、いいかえると、子どもの思いや親の意思を尊重するといふか、子どもの気持ちや願いに寄り添った保育がしたいですね。願いや困っていること

先生たちも食事や保育のことをちゃんと勉強してほしい」と強く願っていたと聞いています。そのために、当時保護者会長だった田中恒子さんが45年以上も前に病院栄養士の経験のあるお姉さんの水嶋敏子さんに話をし、朱い実保育園の給食職員として、仕事をしていたことになったようです。いまに至るも保育所の栄養士配置基準はないのに、ですよ。

給食室付近にドラマがある ——「給食日誌」のすすめ

上掛 朱い実保育園といえは、充実した給食で知られています。

先生たちも食事や保育のこと



水嶋敏子さんは、朱い実保育園だけでなく全国の保育園給食をレベルアップさせることに尽力された方で、「実践しながら記録をし、子どもや保護者から学び、いたいことはちゃんという」という姿勢を貫き、給食室の職員も保育者と一緒に子どもの育ちを見守っていくという土台をつくっていただきました。

一般的に給食職員は職員会議に出なくてもいいとされていた時代に、朱い実保育園では職員会議に出るのも、そこで意見をいうのも当たり前という風土がつくられていたから、やりやすかったですね。

上掛 先ほどお話に出た田中恒子さんは、大阪教育大学の名誉教授で、昨年8月発行の『京都の生協』第81号の対談に登場いただきました。田中恒子先生のお姉さんの水嶋敏子さんはまさしく「保育と給食をつないだ人」（水嶋敏子さんをしのぶ会、2007年）だったんですね。

兼田 はい。子どもにとって保育園は生活の場だし、機嫌のいいときばかりではなくて、お友だちとけんかをしたり機嫌が悪くなるときもある



のは当たり前前で、そういうときは先生に抱っこしてもらって給食室に来て、お茶やおやつをもらって気持ちを立て直して、またクラスに戻っていったりするわけ。子どもにとっても保育者にとっても、給食室がそういう場所として認識されていたんですね。給食職員と保育者の垣根が低く、相互のコミュニケーションも大事にしていたから、わたしたち給食職員も子どもへの理解が深まってきました。それで給食室から見える子どもの様子もすごく大事だと思って、給食日誌を書きはじめたんです。「ドーナツを作るのを失敗したけど、〇〇ちゃんが『カイジウウみたい』と喜んでくれた。子どもに助けられてる！」とかね、失敗したことも、うれしかったことも書くの。それから、おやつにトウモロコシを出す

ときには、子どもたちに皮をむいてもらうこともあります。その時は日誌に書いておくのね。その日誌を展示食（その日の給食見本）の横に置いておくと、子どもたちが皮むきという作業をしてトウモロコシを食べた、ということが迎えにきたお父さんお母さんにわかるでしょ。たんに「おやつ トウモロコシ」と書くだけ

節目としての離乳食

——子どもを「食卓の一員」として迎え入れる

上掛 乳児といえは、離乳食がひとつの節目であり、いわば「食育」の第一歩ですね。

兼田 離乳食というのは、離乳食の進め方があるってその通りに進めていくということの前に、「あなたは、この国や地域で、こういうごはんを食べて、食卓の一員になるのですよ」と迎え入れる意味もあるのね。だから、国や地域によって違うし、家族の就労形態によっても違っていいし、子どもの口の発達段階によっても違う、多様性のあるものです。その考え方を基本にすえた、

けとは全然違ってくると思うのね。給食室付近にもドラマがあるのよね。給食日誌は、自分のやっている仕事や子どものかかわりとして文字として残って、保護者にも読んでもらえるのがおもしろくて、他の園の人にも書くことをすすめました。そして、いろいろな園の給食職員が書きだし、たくさん集

まってきたの。それを読んだ研究者の方が「給食室とそこに給食職員がいる意味」おもしろさのおすそ分け」ということで本にしようということ、わたしも編集委員になって『給食人』（かもがわ出版、2007年）に結実しました。

上掛 給食は「食育」という意味でも大切な位置にありますね。

わかりやすいシンプルな離乳食進行表を作って、保護者にも渡しています。共働きの家なら、具だくさんのおみそ汁を作って、やわらかくしておけば、それで離乳食は進むし、おみそ汁さえ同じなら家族として食卓を囲むことができます。だから、保護者を対象に調理実習をして、簡単なやり方を教えて、「これでいいよ」といつてあげる。そうすると、

から」と声をかけて、いつも親が困っていることや、求めていることに耳を傾けるようにしてきました。わたしも働きながら3人の子どもを育てたから、お母さんたちが自分のおっぱいを飲ませたいと思うのもよくわかるし、子育てをしながら働く親の気持ちもわかるし、給食職員として0歳児も途中入所の子もほぼ全員、食にかかわ

親は安心できるのね。親の安心は子どもにも伝わって、子どもの気持ちも安定するんじゃないかな。「何か気になることがあったらいつてきて。なんとかなることならやる

ることはわたしがオリエンテーションをしてきたので、みんな知っているの。だから、園長職を受けようと決意した、いちばんのより所はそこにあったのです。

食物アレルギー対応の中に「宝」があった ——新しい食材・調理法への挑戦

上掛 食物アレルギーの子どもへの対応も大きな課題でしよう？

兼田 30年前始めたころは何もわからなかったから、子どもが食べられるものは何なのかを、まず親から学んで、アレルギー対応食を作ってきました。乳児のときは自分でアレルギー対応食を食べていても、まだ周りが見えないからあまり問題ないけど、1歳を過ぎて、「自分はみんな



と違うものを食べている」と気づくと、食べなくなるのね。クリスマスのお楽しみクッキーをみんなで楽しみたいとき、考えました。そこで思いついたのが、サツマイモのクッキーでした。薄くスライスしたサツマイモを型抜きで抜いて、焼くとクッキーみたいになるし、これならどの子も食べることができるので、サツマイモは「お助け食材」でしたね。

25年前は家からお弁当を持つてきてもらうことも多かったけれど、せめて水曜日だけはお母さんをお弁当作りから解放しようと思って、共通で食べられる献立をあれこれ考えました。献立作りはたいへんだったけど、年長さんのクラスになると、アレルギーでない子も「きょうは水曜日やなあ。〇〇くんも食べられる日や！」といってくれるようになる。「みんなと同じもの

を食べたい」という気持ち理解できる年齢になると、そういう言葉をくれるので、「この試みをやってみて、よかったなあ」と思いました。食物アレルギーの子どものことを、水嶋さんは「宝や」と教えてくれたことがあけれど、いま、その意味がよくわかる。子どもや親が困っていることに寄り添って、できることを最大限やるなかで、新しい食材や調理法に挑戦する機会をもらえた。まさにこれが「宝やで」の意味だと思いますね。

大事なことは、保護者、保育園、職員が話し合って決める

上掛 朱い実保育園が大切にしてきたことは？

兼田 保護者、保育園、そこで働く職員、この三者が話し合っ、ものごとを決めていくことですね。保育園と、保護者会と、園の職員で構成する労働組合が、月1回の運営協議会で集まって、園の運営について話し合います。共同保育所から出発したこともあって、当事者意識というか、「親も園の運営の主体

である」と自負している保護者が多かったから、保護者会活動も活発です。今年はずーの意義やあり方についてみんなで考えるフリートーキングの場を企画したり、収益アップや雰囲気づくりのために、Tシャツの図柄を公募して、それを制作・販売するという取組みを保護者がしています。わたしが着ているT

シャツも、そのうちの一枚なのよ。

もうひとつ大事にしてきたことは、何か問題が起こったとき、保護者、子ども、園で働く人、それぞれの立場に立って、誰かに過重な負担がかからないような解決の仕方を、みんなで話し合っ、決めるということですね。

たとえば保育士の数が少ないと子どもに目が届きにくくなるので、保育士全員がそろいう時間を増やすために、10年ぐらい前に職員の拘束時間を

8時間から8時間半に30分延長しました。その代わり、職員は土日に続けて休めるように、土曜日は保育士が交代で出勤することにしたんです。そうすると、土曜日は平日より保育士が少ない分、子どもの出席数も減らさないとけない。そのことを保護者にも理解してもらい、保育の必要な子どもはちゃんと保育しつつ、お休みの協力もしてもらっています。

子どもたちがつくった泥だんご



地域コミュニティのひとつの保育園の1歩

上掛 保育や子育てをめぐる社会の状況についてはいかがですか？

兼田 待機児童の解消がよくいわれるけれど、国の対策は、有資格者も少なく、低コストで運営できる小規模な家庭的保育室等の施設に入所させる方向です。でも、そういう施設は、保育スペースが狭く、密室保育になります。

待機児童の多くは、0〜2歳児なので、預けはじめてすぐは泣くのが当たり前なんでしょう、保育に未熟な無資格者などだと、子どもの泣く声を出させないようにするために、布団を掛けたり、布団にうつぶせにする。そんな状況で命を落とす子どもが毎年少なくないんです。

だから、自分で動くことが



できない0〜2歳児の保育を、安上がりですませようと考えないでほしい。子どもを「保育を受ける権利を有する主体」ととらえてほしいですね。

上掛 わたしはノルウェーの福祉を研究しています。1歳以上の子どもの子どもに保育園に通う権利を認め、「保育園の子どもは、保育園での日々の活動に対して、自分の意見を述べる権利を有する」(保育園法、第3条)としています。

兼田 その視点が大事ですね。それと、保護者の労働時間が延びているのも気になります。事業所内保育所をつくるのもいいけれど、子どもの立場で考えたら、親の職場に連れてこられるよりも家の近くの保育園に通うほうが幸せだと思う。だから、子育て中の労働者が早く退勤できるような職場文化をつくったほうがいいと思うし、国も、「女性の支援」をいうなら、女性が働き続けられるような環境整備に本気になってほしいですね。そのためには、女性だけでなく男性の労働時間も短縮して、両性で子育てをするような文化を築くことが大切だと思います。

上掛 これからあらたに取り組みたいことは？

兼田 少し前に、子どもを

保育園に預けていないお母さんたちを対象に、離乳食講座をしたら、台風が接近していたにもかかわらず、赤ちゃんを連れてお母さんが10人も来てくださった。「ああ、家で子育てをしている人たちは、他のお母さんと一緒に食べた話したりする場を求めているんだな」と思いました。

保育園は子育てのノウハウを蓄積しているので、これからは保護者だけでなく地域を対象に、まちの子育てセンターとしての役割も果たしていけるといいなと思います。

上掛 保育園が地域コミュニティのひとつとして機能するようなイメージですね。京都の生協でも、小学生から大学生までを対象に「食育」活動に取り組んでいます。就学前の子どもたちもふくめて協同してやれることがあればいいですね。

わたしは昨年、ノルウェーでの「家庭と保育園の協同」について調査してきましたので、今日のお話はとても興味深かったです。ありがとうございます。(了)

(写真撮影・有田知行)

プロフィール：兼田 祐子(かねだ ゆうこ)

京都府立大学家政学部食物学科卒業後、(財)日本食品分析センターで水の分析を3年間担当。朱い実保育園の元保護者であり、大学のゼミの恩師のすすめで、朱い実保育園の職員採用試験を受ける。1980年より、朱い実保育園の給食室で栄養士として働く。(2男1女・夫)2010年より園長として働く。



朱い実保育園の合言葉「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」(ひとりみんなのために、みんなはひとりのために)がプリントされたTシャツ。バザーでも人気の商品です。

適格消費者団体・NPO法人
消費者支援機構関西(KC's)
総会

6月21日(土)、エル・おおさかで開催。新しい消費者被害回復制度——「消費者の財産的被害の集団的な回復のための民事の裁判手続の特例に関する法律」が2013年12月に成立・公布されたことをうけての総会となりました。

総会終了後、新制度について、大阪大学・学生劇団「ちやうかちゃん」が寸劇形式で紹介したのち、KC's・二之宮義人常任理事(弁護士)がポイントとなる事項について



「新しい消費者被害回復制度とKC'sの役割」をテーマに



大阪大学・学生劇団「ちやうかちゃん」

て解説しました。

シンポジウムは「新しい消費者被害回復制度とKC'sの役割」をテーマに、全国大学生協連大阪・兵庫・和歌山ブロック・田中喜陽平和と社会的課題担当(兵庫県立大学理学部3年生)、KC's・中村夏美理事(大阪府生協連専務理事)、KC's・樋口容子検討委員(消費生活相談員)、KC's・二之宮義人常任理事によるパネルディスカッションがおこなわれました。KC's・片山登志子副理事長(弁護士)がコーディネーターをつとめました。京都府生協連・横山治生専務理事がKC's理事をつとめています。

京都くらしの安心・安全ネットワーク情報交換会

7月2日(水)、京都テルサで開催されました。京都府民生生活消費生活安全センター・奥村功センター長が開会のあいさつ。

平成25年度事業実績、京都くらしの安心・安全ネットワーク規約の改正、平成26年度事業計画(案)について、報告がありました。

各参加団体や地域ネットワークから活動報告がありました。つづいて、「待ち」から「攻め」の消費者教育をテーマに、大阪教育大学教育学部・大本久美子准教授が講演しました。

同ネットワークは、広域化・複雑化・悪質化する消費者問題に迅速に対応し、消費者被害の未然防止、早期発見、早期救済を図るため、ネットワーク参加団体間の連携と情報交換、交流を促進し、協働した府民参画による取組みをすすめ、安心・安全な消費生活の実現をめざすことを目的に設立されたものです。49団体(6月1日現在)が登録しています。

適格消費者団体・NPO法人
京都消費者契約ネットワーク
(KCCCN) 総会

6月3日(火)、京都司法書士会館で開催されました。同ネットワーク・高島英弘理事長が開会あいさつをおこなった。長野浩三理事・事務局長が議案提案。「2013年度事業報告」「活動計算書等」など全議案を承認しました。

総会後、宇都宮健児弁護士による記念講演会が開催されました。「大量消費者被害の救済と新しい集団訴訟・特定適格消費者団体の意義と課題」



宇都宮健児弁護士「大量消費者被害を救済しよう」

について」と題して、これまで取り組んでこられた大量消費者被害事件とその救済について報告され、特定適格消費者団体の意義と今後の課題についてご説明いただきました。

京都府生協連・横山治生専務理事が同ネットワーク理事に選任されました。

NPO法人コンシューマーズ
京都・原強理事長が内閣総理大臣表彰

消費者庁では、消費者支援功労者表彰制度を設けています。2014年度、原理事長が京都府内初となる内閣総理大臣表彰を受けました。5月26日(月)、首相官邸で森雅子内閣府特命担当大臣より表彰状が授与されました。

原氏は40年余り、大学生や市民への消費者教育活動や水銀が含まれている蛍光灯の回収と適正処理、再資源化のシステムづくりなどに貢献しました。

2012年度は、京都府生協連が内閣府特命大臣表彰を受けています。

京都府生協連 第61回通常総会開催

全議案を満場一致で可決、役員20人を選任、総会アピールを採択

6月17日(火)、午後1時30分からコープ・イン・京都で、「京都府生活協同組合連合会第61回通常総会」を開催しました。

今総会の代議員数は43人で、当日の出席は本人出席37人、書面出席6人でした。ご来賓をはじめ、78人の参加となりました。



開会のあいさつをする上掛利博会長理事

上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓の京都府府民生活部・梅原豊副部長(京都府・山田啓二知事代理)、京都労働者福祉協議会・村岡和也事務局長(京都労働者福祉協議会・橋元信一会長代理)から、ご祝辞をいただきました。



京都労働者福祉協議会・村岡和也事務局長
(京都労働者福祉協議会・橋元信一会長代理)



京都府府民生活部・梅原 豊副部長
(京都府・山田啓二知事代理)

酒向直之事務局長が、国会議員、各関係団体、各生協からいただいた75通の祝電・メッセージをご紹介します。提案されたすべての議案が、満場一致で可決されました。員外理事をふくむ17人の理事と3人の監事が選任されました。

2014年度の役員体制は左ページのとおりでです。

最後に、日岡豊子理事が総会アピールの採択について提案し、拍手で確認しました。



今回退任された役員のみなさん (敬称略)

- 常任理事 廣瀬 佳代 (員外)
- 理事 今西 静生 (京都府生活協同組合専務理事)
- 理事 加藤 節子 (やましる健康医療生活協同組合専務理事)
- 理事 児玉 恵美 (京都工芸繊維大学生生活協同組合専務理事)
- 理事 五藤 実 (同志社生活協同組合専務理事)
- 監事 湯浅美恵子 (京都生活協同組合常任理事)

祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた (敬称略・順不同・6月17日現在)

自由民主党衆議院議員	安藤 裕	自由民主党衆議院議員	田中 英之	民主党衆議院議員	泉 ケンタ
民主党衆議院議員	山井 和則	民主党参議院議員	福山 哲郎	日本共産党衆議院議員	こくた恵二
日本共産党参議院議員	井上さとし	日本共産党参議院議員	倉林 明子		
京都市長	門川 大作	京都府議会議長	多賀 久雄	京都府社会福祉協議会会長	増田 正蔵
京都市社会福祉協議会会長	村井 信夫	京都商工会議所会頭	立石 義雄		
京都府農業協同組合中央会会長	中川 泰宏	京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川順之輔		

総会アピール

平和とよりよい生活をめざして、地域のすみずみに生協の事業と活動を広げましょう!

「戦争をしない国」から「戦争をする国」へ——いま、日本の国のあり方の土台をこわそうとする動きがよまっています。安倍首相は5月15日、「集団的自衛権」を名目に、日本にたいする直接武力攻撃がなくとも、他国のための武力行使を可能とする憲法解釈変更をおこなう考えをあきらかにしました。第2次世界大戦による災禍をふまえ、日本国憲法9条は、「戦争の放棄」「戦力をもたないこと」「交戦権を認めないこと」を定め、恒久平和主義の考え方を決めていきます。憲法の基本原理に関わる重大な解釈の変更が、時の政権の判断のみでおこなわれることは、立憲主義の考え方に反し、認めることはできません。

2015年には被爆・終戦70周年をむかえます。また、5年に一度のNPT(核不拡散条約)再検討会議が開催されます。私たち生活協同組合は、戦後、全国の地域・職場・学園で、平和とよりよい生活をもとめて活動してきました。この節目の年にむけ、平和、憲法の問題について、一人ひとりが判断し、行動できるように、学習活動を旺盛にすすめ、地域の諸団体とともに、「平和をつくる」取組みを広げていきましょう。

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故から4年目をむかえました。被災地の復興は道半ばであり、原発事故の収束は先が見えない状況です。ひきつづき、全国の生協とともに力を合わせ、被災地の復興と生活再建にむけた支援がもとめられています。一方、国の新しいエネルギー

10人が活発に発言

当日は10人の代議員・オブザーバーから、地域生協・大学生協・医療生協・職域生協・共済生協の活動について活発な発言がありました。

これらの発言をふまえ、横山治生専務理事が「京都の生協がそれぞれの分野で組合員の要求にこたえて、旺盛に取り組まれていることが伝わる内容だった。これらの報告をふまえ、今後の府連の活動の糧にさせていただきたい」とまとめをおこないました。



横山治生専務理事がまとめ報告

2014年度役員体制

7月17日現在 (敬称略)

*印は新任

代表理事・会長理事	上掛利博 (員外)
副会長理事	中森一朗 (京大生活協同組合専務理事)
副会長理事	鯨江賢光 (京大生活協同組合専務理事)
代表理事・専務理事	横山治生 (員外)
常任理事	本多浩* (京都市府生活協同組合専務理事)
常任理事	沼澤明夫 (大学生生活協同組合京都事業連合専務理事)
理事	大塚正文* (京都橋学園生活協同組合専務理事)
理事	小野留美子 (乙訓医療生活協同組合専務理事)
理事	上総紫香子 (生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ副理事長)
理事	鯉迫裕子* (龍谷大学生生活協同組合専務理事)
理事	坂本茂 (員外)
理事	坂本真有美 (生活協同組合コープ自然派京都理事長)
理事	田中弘 (京都医療生活協同組合専務理事)
理事	堂本吉次* (やましろ健康医療生活協同組合専務理事)
理事	日岡豊子 (京大生活協同組合理事)
理事	山川修司* (全京都勤労者共済生活協同組合専務理事)
理事	渡邊明子 (京大生活協同組合理事長)
特定監事	今西静生* (京都市府生活協同組合理事)
監事	石井聡* (京大生活協同組合常勤監事)
監事	酒井克彦 (立命館生活協同組合専務理事)
(事務局)	
事務局長	酒向直之
事務局担当	川端浩子
事務局担当	岡本朋子
渉外・教育担当	原 強

発言者とテーマ



生活協同組合生活クラブ
京都エル・コープ
二宮千明紀代議員

「2013年度活動報告から——2014年度の活動へ」



京都生活協同組合
渡邊孝子代議員

「2013年度の京都生協の特徴的な取組みと京都府生協連への期待」



乙訓医療生活協同組合
米重恭子代議員

「認知症予防で明るいくらし、脳いきいき教室の取組み」



立命館生活協同組合
中ともみオブザーバー

「大学生による消費者教育」



同志社生活協同組合
河野未有代議員

「キャリアアップの取組み」



生活協同組合コープ
自然派京都
服部五月代議員

「第1次中期計画の策定について」



京都市民共済生活協同組合
谷口美晴代議員

「組合員に対する教育事業の実施内容」



全京都勤労者共済生活協同組合
松本浩代議員

「2013年台風18号・2014年2月風雪害等への対応について」



京都市府生活協同組合
本多浩オブザーバー

「府生協の現状と2014年度の課題」



やましろ健康医療生活協同組合
小松正明代議員

「健康づくり(健康トークカフェ)の取組み」

基本計画では、原発を重要な電源と位置づけ、再稼働をすすめる方針が明記されました。このようななかで、大飯原子力発電所をめぐる運転の差止め訴訟では、福井地裁が福島第一原発事故の深い反省のもと、「国民の命と暮らしを守る」という「人格権」に基本的価値を置く考え方がら運転再開を認めない判決をだしました。そこで原発に頼るのではなく、再生可能エネルギーを中心とした政策への転換が必要で、消費税率が8%に引き上げられ、料金の値上げにこたえ、医療・福祉・年金などの社会保障が後退するなか、私たちの暮らしへの負担は、以前にも増して厳しくなっています。65歳以上の高齢人口が25%を超えました。少子高齢社会、少人数世帯、貧困化、所得格差の広がりなどなかで、地域のつながりが薄れていきます。高学費と貧弱な奨学金制度などが学生を苦しめ、学業にも深刻な影響をもたらしています。協同の組織である生協の役割発揮が、地域でも、職場でも、学園でも、もたらわれています。

私たち生活協同組合は、組合員の声にもつきながら、地域社会の一員として、行政や他の協同組合組織、NPOなど諸団体とのつながりを強めていく必要があります。よりよい生活と安心して暮らせる地域づくり、人が人として暮らしにされる平和な社会をめざして、府内のすみずみで生協の事業と活動を展開していきます。

京都府生活協同組合連合会は、府内における20の会員生協の連合組織として、その役割を發揮してまいります。

2014年6月17日

京都府生活協同組合連合会

2014年国際協同組合デー 第25回京都集会

「京都府協同組合連絡協議会25周年を迎えて
「協同組合の課題と展望」をテーマに開催



京都府生協連・上掛利博会長理事が開会あいさつ

7月9日(水)、キャンパスプラザ京都で、「2014年国際協同組合デー第25回京都集会」が開催され、JA、JF京都、森林組合、生協から191人が参加しました。

国際協同組合デーは、毎年7月第1土曜日を、全世界の協同組合員が心をひとつにして、協同組合運動の発展を願ひ、平和とよりよい生活を築くために、運動の前進を誓い合う日として、1922年に制定されたもの。京都では毎年、京都府協同組合連絡協議会(構成/JA京都中央会・京都府森林組合連合会・京都府漁業協同組合・京都府生活協同組合連合会)の主催で、記念集会企画を実施しています。

ことしは25回の記念集会として「京都府協同組合連絡協議会25周年を迎えて」協同組合の課題と展望」がテーマ。

自由民主党・二之湯智参議院議員から祝辞をいただきました。



京都府森林組合連合会・松田純一総務課長

京都府森林組合連合会・松田純一総務課長が司会を担当。京都府生活協同組合連合会・上掛利博会長理事が開会あいさつをしました。

つづいて、「放射性物質と食の安全について」、財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター・宇野賀津子先生にご講演をいただきました。

参加者からは「科学的に考えて数値を出して確認することの大切さがわかった」「風評に左右されず正しい情報をもとに、食の安全を考える機会になった」など多くの感想が寄せられました。



京都府漁業協同組合・西川順之輔代表理事組合長

次に「協同組合の課題・展望」をテーマに、滋賀県立大学・増田佳昭教授にご講演いただきました。

参加者からは「協同組合の置かれている状況と方向がよくわかった」「農協改革等の現在の政治状況が理解できた」「組合員とともに協同活動に取り組む必要性を感じた」などの意見がありました。

さいごに、京都府漁業協同組合・西川順之輔代表理事組合長が「厳しい情勢に立ち向かうために原点に帰って協同組合間協同を推進していきたい。4つの協同組合が連携し、取り組んでいきましょう」と閉会のあいさつをのべました。

「放射性物質と食の安全について」

財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター 宇野賀津子先生

福島第一原発事故が起こった直後から何ができるか考え、低線量放射線研究会を立ち上げ、情報発信をしてきました。

いちばん伝えたいことは、高線量放射線と低線量放射線の影響は異なるということだと思います。がんや老化への影響ということになれば、今からでもその影響を軽減することは可能であり、放射線を浴びて以降の生き方で、20年先、30年先が変わってきます。放射線を浴びたからといって自暴自棄になることが危険だということですが、放射線もタバコも肥満も活性酸素を発生、遺伝子や細胞を傷つけます。しかし変異した細胞が即がん化するわけではなく、長いプロセスがあります。少し免疫力があがるだけで、結果は大きく異なります。自然治癒力を活性化しましょう。笑うと免疫力があがるといわれていますし、人間の身体は多段階の抑



(財)ルイ・パストゥール医学研究センター・宇野賀津子先生

制機構があり、変異細胞(がん細胞)の除去に働く、ナチュラルキラー(NK)細胞は日々、出現します。また放射能汚染を恐れて野菜を食べない生活は、野菜を食べないことによるリスクの方が大きいためと考えられます。福島原発事故とチェルノブイリ事故は放射線放出量や土壌、ヨウ素摂取量に差があります。科学的に物事を見る眼、リスクを総合的に判断する眼、情報を選別する眼を鍛えましょう。

「協同組合の課題・展望」

滋賀県立大学 増田佳昭教授

「日本の農業は高齢化や担い手不足、耕作放棄地などで出口のない危機に陥っている。TPPに参加となれば対抗するために競争を導入しなければならぬ。そのためには企業に参入してもらわないと、太刀打ちできない」という人がいるが、本当にそうなのか。高齢化といわれるが、

次世代の農業者は増えてきているので、大事にして応援することが大切だ。協同組合の強みは、組合員の参加と、安心なブランドや身近なブランドということ。組合員が主人公であり、「組合員のために」から「組合員とともに」を基本となるようにしたい。

国際協同組合年(IYC)は2012年で終了したが、IYCをスタート地点として協同組合をさらに発展させるために、国際協同組合同盟(ICCA)では2020年を視野に入れた「協同組合の10年に向けた計画(ブループリン

ト)」を作成した。「ブループリント」と日本の協同組合の課題は、「参加」と「持続可能性」だと考えられる。組合員が活動に参加し、地域とのかかわりをどう具体化していくのが大事だ。

組合員の農業経営と持続的で、安定した地域社会を守ることに、そのために協同組合は存在しているのである。「ものを売る」だけでは長寿組織にはなれない。よりよい社会をめざして、協同組合間協同でがんばっていただきたい。



滋賀県立大学・増田佳昭教授

25周年記念 として



今回は25周年記念として、昼食には「おばんざい弁当」、お土産として「八重の郷桜めん」がプレゼントされました。京都府庁生協が提供した当日のお弁当は、季節とともに昔からの京都の人たちに愛されてきた「おばんざい」の良さをいかし、「おいしさ」と「健康」の両立をめざして企画されたもの。

「八重の郷 桜めん」は、毎年美しい花を咲かす会津鶴ヶ城の桜をイメージし、桜の葉・花を麺に練り込んで作られています。福島復興支援としてプレゼントされました。

ピースアクション京都2014

6月21日(土)、京都府生協連のよびかけで

生協組合員約150人がピースパレードに参加



京都府生協連・上掛利博会長理事、京都生協・渡邊明子理事長、生協コープ自然派京都・坂本真有美理事長、京都生協・鯉江賢光常務理事が先頭をきって行進

6月21日(土)、「2014年ピースパレード京都」が取り組まれました。「平和と核廃絶の願いをもちより、広島・長崎での世界大会につなげよう」との趣旨ではじまった京都の生協のピースパレードは、今年で31回目をむかえました。

京都府生協連のよびかけで、京都生協・生協コープ自然派京都・大学生協・京都府庁生協などのほか、鳥取県や滋賀県の生協からの参加もあり、組合員・役員150人が「世界中に伝えたい まあるい地球 みんな友だち みんな好き」をテーマに、街ゆく人びとに力づくよく訴えました。土曜日開催となったパレードは、多くの観光客の中を祇園石段下から四条通り、河原町通りをすすんで、京都市役所へ。歌をうたいながらの行進となりました。



鳥取県の生協のみなさん



京都生協のみなさん

を訴えるプラカードを掲げたり、楽しみながら平和をアピールする、はなやかでにぎやかな催しとなりました。

パレードの出発の前に、円山公園内で出発集会が開かれました。京都生協・中田和子さんが司会を担当、京都生協・橋本博子ピースパレード実行委員長があいさつをおこないました。

鳥取県の生協からの参加者をはじめ、各団体によるピースアピールがあり、それぞれの熱い思いが語られました。つづいて原水爆禁止国民平和大行進からのメッセージが紹介されました。



京都府生協連・上掛利博会長理事

ゴールとなった京都市役所前では、まとめ集会がおこなわれ、京都府生協連・上掛利博会長理事が生協を代表してあいさつをおこないました。



「世界中に伝えたい まあるい地球 みんな友だち みんな好き」

＜2014年原水爆禁止国民平和 大行進実行委員会へのメッセージ＞

※抜粋

安倍首相は5月15日、「集団的自衛権」を名目に、日本にたいする直接武力攻撃がなくとも、他国のための武力行使を可能とする憲法解釈変更をおこなう考えをあきらかにしました。第2次世界大戦による災禍をふまえて、日本国憲法9条は、「戦争の放棄」「戦力をもたないこと」「交戦権を認めないこと」を定め、恒久平和主義の考え方を決めていいます。憲法の基本原理に関わる重大な解釈の変更が、時の政権の判断のみで行なわれることは、立憲主義の考え方に反し、認めることはできません。

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故から4年目をむかえました。被災地の復興は道半ばであり、原発事故の収束は先が見えない状況です。ひきつづき、被災地の復興と生活再建にむけた支援がもめられていきました。一方、国の新しいエネルギー基本計画では、原発を重要な電源と位置づけ、再稼働をすすめる方針が明記されました。このようななかで、大飯原子力発電所をめぐる運転の差止め訴訟では、福井地裁が、「国民の命と暮らしを守る」という「人格権」に基本的価値を置く考えから運転再開を認めない判決をだしました。今こそ、再生可能エネルギーを中心とした政策への転換が必要で

2010年5月に開かれたNPT（核不拡散条約）再検討会議は、「核兵器のない世界の平和と安全を達成すること」を決議し、最終文書を全会一致で採択しました。2015年NPT（核不拡散条約）再検討会議と被爆70年をむけて、平和行進の取り組みが、そのため力強い一歩となることをあらためて確認しようではありませんか。

2014年6月21日

京都府生活協同組合連合会
会長理事 上掛 利博

ピース交歓会を開催

同日、せいきょう会館東隣のおおたやで、「ピース交歓会」を開催しました。

この交歓会は、東京から広島までの「通し行進者」や、京都府内の「通し行進者」を迎えて、京都入りの歓迎と激励をかねて、毎年おこなわれています。

京都生協・鳥井礼子理事の歓迎のあいさつにつづいて、大学生協京滋・奈良ブロッコ・芝田考一さんが乾杯の発声。暑い中をパレードした健闘をたたえ合いました。通し行進者の自己紹介や鳥取県生協連や鳥取生



通し行進者の自己紹介



腕を組んで、大合唱！

協からの参加者の紹介、京都生協組合員による激励など盛りだくさんの内容でした。京都生協の有志による生演奏に乗り、みんなで腕を組んで、大きな声で「青い空は」や「We Shall overcome」などを合唱。

原水爆禁止京都協議会・小杉功事務局長が閉会のあいさつをしました。

きょうと食育ネットワーク
通常総会



同志社大学・今里 滋教授

6月22日(日)、京の食文化ミュージアム・あじわい館で開催されました。代表の同志社大学・今里滋教授が開会のあいさつ。第1号議案「平成25年度事業報告」、第2号議案「平成26年度事業計画(案)」が承認されました。

同ネットワークは、食育にかんする普及・啓発、情報の収集・提供、食育支援活動の登録・提供などの取り組みをおこなっており、保健衛生、農林水産、教育、大学、商工、消費者団体、報道関係など幅広い分野から88団体(6月22日現在)が会員登録しています。

総会終了後、「きょうと食育講演会」が開催され、長崎県南島原市立口之津小学校・福田泰三教諭が「子どもの生きる力を高める食育」と題して講演しました。

近畿地域食育実践者等の交流会
「食育への理解と関心を深めよう」

6月25日(水)、コープ・イン・京都で、近畿地域における食育の取り組みの活性化を図ることを目的に開催されました。主催は農林水産省近畿農政局。

近畿農政局・曾根則人局長が開会のあいさつをおこない、京都府立大学大学院・大谷貴美子教授が「食文化と食育について」をテーマに講演しました。

つづいて(公社)全国農地保有合理化協会会長・(一社)全国米麦改良協会会長・元農林水産事務次官・渡辺好明氏が「食育と農政に思うこと」をテーマに講演しました。講演の後、食育実践者の活動内容が展示されているパネルを見ながら、情報交換がおこなわれました。105人の参加がありました。



京都府立大学大学院・大谷貴美子教授

京都府消費者教育フォーラム
が開催されました



3月11日(火)、メルパルク京都で開催。主催は京都府と京都くらしの安心・安全ネットワーク。NPO法人コンシューマーズ京都が企画・運営しました。国民生活センター前理事長・野々山宏弁護士が基調講演。



大学生協京滋・奈良ブロックから報告

消費者庁が消費者教育推進に関する取組状況、京都府・奥村消費生活安全センター長が消費者教育推進計画について報告しました。

京都府金融広報委員会、大阪ガス(株)、認定NPO法人きょうとグリーンファンド、大学生協京滋・奈良ブロックの4つの団体・企業から、それぞれで取り組んでいる消費者教育について、事例報告がありました。

京都くらしの安心・安全ネットワークには、京都府生協連も参加しています。

京都府
省エネ・節電調整連絡会議

5月29日(木)、御所西京都平安ホテルで開催されました。

①関西電力からの今夏の電力需給見通し、②国及び関西広域連合の電力需給対策、③京都府の省エネ・節電対策、と段階を追って説明を受けた後に質疑応答の時間が設けられました。

「7月1日(火)〜9月30日(火)の平日(8月13日〜8月15日を除く)の9時〜20時に、平成22年度夏比マイナス11%以上を目安とした節電の実施」という京都府からの呼びかけに対して、関係諸団体も協力していくことが確認されました。

地球温暖化防止府民会議総会



6月29日(日)、京都府立大学で開催されました。平成25年度事業報告、決算、平成26年度事業計画、予算等、すべての議案が承認されたあと、関連セミナーとして「日本経済と再エネ・節電所」をテーマに、関西学院大学・朴勝俊教授の講演がおこなわれました。

講演では「200トンの冷蔵庫を100トンの冷蔵庫に買い替えたなら、100トンの『節電所』を建設したことになる。これを100万世帯で取り組むと、100万トンの巨大節電所Ⅱ発電所になる」とわかりやすく節電の意義を紹介。さまざまな節電プログラムの事例なども紹介されました。

介護保険制度改定と新しい
地域支援事業の意見交換会

6月25日(水)、介護保険制度の改定により、2015年から要支援者を対象とした予防介護事業が地方自治体に移管されることを見ずえ、会員生協担当者による意見交換会をおこないました。日本生協連関西地連の報告のあと、京都府生協連・上掛利博会長理事から生協らしい介護・福祉・サービス事業のあり方について提起がありました。

各生協の問題意識や準備している生活支援サービス等の紹介と交流、介護保険制度の改定内容と新たな地域支援事業について学習会を予定することなどを話し合いました。

乙訓医療生協、やましろ健康医療生協、京都生協、生活クラブ京都エル・コープから参加がありました。



生協らしい介護・福祉・サービス事業のあり方とは…

京都府災害
ボランティアセンター総会



京都府・山田啓二知事が揮毫

京都府災害ボランティアセンターは、2004年に発生した台風23号災害の教訓を活かし、被災地で円滑なボランティア活動をおこない、早期復旧につくすことを目的に2005年に発足、今年で9年目を迎えます。

7月5日(土)の総会では、今日的に求められるニーズや社会的要請に対応するための組織の再構築にむけて、専任事務局職員の配置等をふくむ規約の改正をおこないました。総会終了後、京都府・山田啓二知事の揮毫による同センター看板の設置式がおこなわれました。午後からは、「災害時における初動の視点」、「災害時の初動における先遣隊の役割について〜東日本大震災の事例から〜」と題して講演がありました。

京都市ゴミ減量推進会議総会

6月13日(金)、御所西京都平安ホテルで開催されました。同推進会議は、ごみ減量に関する意識の高揚を図るとともに、地域でのごみ減量に関する自主的な取組みを促進することを目的に、市民・事業者・行政の三者が自発性とパートナーシップを発揮することを基本として、1996年に発足しました。

総会では、同推進会議を取り巻く社会的背景の変化、使命及び目指すべき方向性、組織および運営体制などを明らかにした「持続可能な組織運営に向けた行動計画」を承認しました。参加団体は448会員、総会には228会員が出席しました。

ドイツのエネルギー転換の
現場に学ぶ京都講演会



70人が参加者しました

3月16日(日)、コープ・イン・京都で開催しました。コーディネーター兼通訳の愛媛大学・村田武客員教授によるガイダンスのあと、ドイツから招致したお二人の講師による講演がありました。

ドイツでは700以上のエネルギー協同組合があります。

自然エネルギーの普及拡大がすすんだ背景として①政府による脱原発政策、②多数の小さな地域コミュニティの存在、③ライフアイゼン農協以来の地方における協同組合の伝統、④出資者への高金利、高利益配分、などが紹介されました。

主催は京都府生協連、(一社)農業開発研修センター、(一社)京都自治体問題研究所他9団体で構成する実行委員会。

大学生協京都事業連合と
NPO法人コンシューマーズ
京都が京都環境賞受賞

京都市では地球温暖化の防止や循環型社会の形成をはじめ、環境の保全を目的とした自主的な実践活動をさらに推進するため、先進的な活動等に取り組んでいる個人や団体に対する表彰をおこなっています。

大学生協京都事業連合とNPO法人コンシューマーズ京都が、2014年度特別賞を受賞しました。

大学生協京都事業連合は、環境レポートで、環境負荷低減の実績をわかりやすく伝えていると評価されました。

NPO法人コンシューマーズ京都は、水銀が含まれる蛍光管の適正処理に向け、10年以上にわたって啓発活動や蛍光管回収の仕組みづくりを進めていることが評価されました。



京都市・門川大作市長(前列右から二人目)を囲んで記念撮影

京都府生協連 第12回 「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる

協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ

食育活動の推進にむけて



生協コープ自然派京都・
服部五月常任理事

生協コープ自然派京都・服部五月常任理事からは、理事会やテーマ別活動・エリア活動グループによる親と子の料理体験企画を開催している様子や里山の環境保全をめざす取り組み等について紹介がありました。

京都府生協連・上掛利博会長理事が開会のあいさつをおこない、沼澤明夫常任理事がコーディネーターをつとめました。

4月15日(火)、せいきょう会館で開催しました。28人が参加しました。生協は健康なくらしの基礎に「食」を位置づけています。生協の食育活動をテーマにさまざまな切り口からの実践事例を交流。京都府が推進して取り組まれている府内の食育活動についても紹介されました。

CO-OP

発行 京都府生活協同組合連合会
TEL 075(251)1551
URL http://www.kyotofu-seikyoren.com

〒604-0851 京都市中京区烏丸東側
せいきょう会館2階
E-mail kyotofu.seikyoren@ma2.seikyoren.jp



大学生協京阪神北陸統合事業部
フードサービス事業部・
飯田朋子管理栄養士

大学生協京阪神北陸統合事業部・飯田朋子管理栄養士からは、食生活提案活動の取り組みのなかから、「食生活相談会の開催」と「ミールカードシステム」の紹介がありました。



生協生活クラブ京都エル・コープ・
茨木美紀子理事

生協生活クラブ京都エル・コープ・茨木美紀子理事からは、エッコー委員会とNPO法人京都子育てネットワークと連携して取り組んでいる活動の紹介がありました。

京都生協組織運営部・神田道代企画担当からは、日本生協連が開発した「子どもとその家族を対象とした通信型の食育プログラム」を活用した取り組みの紹介がありました。



京都府農林水産部・
川崎淳司理事 [当時]

京都府農林水産部・川崎淳司理事(当時)からは、京都府における食育の取り組みと第2次京都府食育推進計画についての紹介がありました。



京都大学生協・
井上真美学生委員

京都大学生協・井上真美学生委員からは、「ちゃんと食べよう」体にオイシイ料理教室」の取組みと「ちゃん食べ甲子園(仮称)」の企画立案の紹介がありました。



京都生協組織運営部・
神田道代企画担当

おもな行事のお知らせ

寄付講座・協同組合論

日時: 8月26日(火) 30日(土)
会場: キャンパスプラザ京都

2014年度京都府総合防災訓練

日時: 8月31日(日) 午前
会場: 主会場・木津川市中央体育館および周辺グラウンドほか

※京都府生協連はJAGグループとともに緊急物資搬送訓練に参加。

京都府協同組合

「第14回職員体験・交流学校」

主催: 京都府協同組合連絡協議会(JA京都中央会・森連・JF京都・生協連)

日時: 9月10日(水) 11:45~11日(木) 12:45(予定)
会場: 京都生協本部など
テーマ: 生協の宅配事業について学ぶ

2014チャレンジJwakweekスポーツフェスタ

主催: 京都労働者福祉協議会
日時: 10月5日(日)
会場: テルサ・フィットネスクラブ(京都市南区新町通り九条下ル)

京都環境フェスティバル2014

主催: 京都府・京と地球の共生市民会議ほか
日時: 12月13日(土)~14日(日)
会場: 京都府総合見本市会館(京都・パルスプラザ)
※京都府生協連は会員生協の環境商品、取組み紹介で出展予定。